

学校便り

第330号
平成26年7月18日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

自然の恵み

副校長 田中豊一

本校では、花壇での野菜づくりや草花の栽培をはじめ、光が丘公園内でのバードサンクチュアリ、生活科見学など、様々な機会に自然と触れ合える機会を設けています。しかし、都会に住む子供たちに自然を感じさせる機会は年々減ってきています。大人が意図的に計画的に、子供たちと自然と触れ合わせる必要となってきました。

先日は2年生が、全校児童分のトウモロコシの皮むきをしてくれました。貴重な体験です。本校の学区域には、キャベツ畑やじゃがいも畑、とうもろこし畑などが広がっています。それらを眺めるのもおもしろいものです。総合的な学習では、地域の方の協力を得て3年生が大根の種まき・除草・収穫を、また5年生は秋の陽公園で田植えと収穫を体験します。収穫時には、大地の恵みを実感し、実りの喜びに包まれます。光が丘公園では、芝生の感触を楽しんだり、鳥や虫を探し回ったりすることもできます。

幸いにも、都会の中でも自然に恵まれた光が丘・田柄に育つ光っ子たちです。この地域で遊び、自然に触れ、自然の素晴らしさと楽しさを心に刻んでほしいと願っています。親子での散歩もよいでしょう。ある時は子供の発見に耳を傾けたり、季節の変化に目を向けさせたりすることを積み重ねていきたいものです。自然の恵みを享受して、心豊かな子に育つことでしょうか。豊かな感受性が引き出されることでしょうか。

今年度の最大の天体ショーは、10月8日（水）に日本全国で見られる「皆既月食」です。この辺りでは平成19年にも見られた皆既月食ですが、暗い夜空に「赤銅色の月」が浮かぶ様をじっくりと見た記憶があります。2年前の金環日食のような派手さはありませんが、何とも言えぬ風情があり、自然の素晴らしさを感じる一時となることでしょうか。当日が晴れることを今から願っています。

さて、明日からは長い夏休みとなります。この機会に、月の変化や星座、惑星等を眺めるなど、広い世界にも目を向ける機会を増やしていただければと思います。

最近、子供の世界では、非行の低年齢化やいじめの問題が絶えません。自然と触れ合えば、全ての今日的課題が解決するとは思えませんが、一助になることは確かです。自然の大きさや素晴らしさの中に身を置くと、なぜか心が広く豊かな気持ちになります。これも自然の恵みの一つなのかもしれません。

また、練馬区では環境作文コンクールを行っています。①わが家のエコじまん ②ねりまでみつけた・感じた自然 ③家で！学校で！みんなでできるリサイクル、の3つのテーマから一つを選んで、400字詰め作文用紙で2～4枚書いて応募するものです。応募者全員に参加賞もいただけます。子供たちは募集要項を持ち帰っていますので、よく読んで、ぜひ応募してください。夏休み明けには学校へ持たせてください。

この夏休みを計画的に過ごし、豊かな自然との触れ合いの中で、一回り大きく、たくましくなった光っ子たちと、また笑顔で9月に会えることを楽しみにしています。